

校長室だより（No2）つながる絆！みんなで輝け！くましえん運動会を終えて

5月19日（土）、「つながる絆！ みんなで輝け！ くましえん運動会」のスローガンのもと、平成30年度くましえん運動会を開催し、子供たちは日々の練習の成果を十分に発揮して、「一番いい姿」を見せてくれました。

前夜の雷雨が気になり、当日の朝早く学校に行くと、思ったとおり運動場の状態がとても悪く、体育館での実施も考えました。しかし、早朝から全職員が運動場の水取をしたり、表土を削って乾いた土を入れたりして懸命に整備を行ったことで、何とか運動場でプログラム通りに実施することができました。

当日は、子供たちを応援するために、保護者やご家族、ご来賓、関係者、地域の方々など、たくさんの方が来校されました。また、多良木高校、南稜高校、球磨中央・商業高校、球磨工業高校の生徒の皆さんに、本校の子供たちとの交流と運動会のスムーズな進行の手伝いをしてもらいました。（大変お世話になりました。）

話は変わりますが、運動会の成功に向けて5月1日に「運動会結団式」を行い、その式の中で、子供たちと一緒に「運動会を盛り上げる条件」を考えました。子供たちから様々な条件が発表されましたが、大きく分けると次の5つになります。

- ①「天気が良いこと」、②「観客が多いこと」、③「競技内容が充実していること」
- ④「進行がスムーズであること」、⑤「自分の精一杯で頑張ること」です。

開会式の挨拶の中で、子供たちと上記5つを確認し、「今日は、運動場の状態を除き、天気、観客、競技内容、進行は問題ありません。後は、皆さんの『頑張る姿』と『笑顔』だけです。つながる絆！ みんなで輝け！ くましえん運動会のスローガンのもと、昨日までの練習の成果を発揮して、『一番いい姿』を見せてください」と話したところです。

また、本年度本校が「創立40周年」であることから、運動会の各学部種目は、「つなごうみんなの笑顔 つなげよう輝く未来へ くましえんの“わ”」の40周年テーマを盛り込んだものでした。内容を簡単に説明すると、

小学部は、「ときどきわくわくすてきなコックさん！」と題して、児童が小さなコックさんになり、本校創立40周年記念を祝う「大きなケーキ」に、ロウソクに見立てた3色（青・緑・黄）のペットボトルをケーキに立て、その立てたロウソクにボールを投げて倒し（吹き消し）ました。普通であれば、この時点で多く倒した方が勝ちになるのですが、ここで



終わらないのが本校小学部です。その後、「総料理長」に扮した私が“アイマスク”を付けて登場し、倒れたロウソクの中で勝敗を決めるロウソクの色（緑）を指定しました。その結果、9本対8本となり、1本差で「赤」団の勝ちでした。見ていてとても微笑ましく感じたところです。

中学部は、「ダンシング玉入れ」と題して、玉入れと踊り（くまこい六調子）の融合という、見ていて楽しくなる競技種目に取り組みました。内容は、生徒たちは、六調子が流れている間は踊り、曲が止まると太鼓の音に合わせて玉入れを行うというもので、勝敗は、この繰り返しを4回行う中で、高さ約3mの籠に多く玉を入れた方が勝ちという競技です。生徒たちは、息を切らしながらも笑顔を絶やさず取り組んでいました。結果は、これまた51個対50個の1個の差で赤団の勝ちでした。この競技は、ある意味インターバルトレーニングで、生徒の体力もさることながら、生徒以上に大きな動作で踊る先生の体力に驚かされたところです。



高等部は、「STAND BY ME ～進化への挑戦～」と題して、46人の生徒が力を合わせて、「組体操とダンス」に取り組みました。組体操は昨年度実施したこともあり、生徒たちは練習の段階から要領がよく、完成度も昨年度より少し上達したように感じました。また、組体操後のダンスのフィナーレ時には、「高等部“絆”」の声に合わせて“絆”と書かれた大旗を掲げて締めくくりました。演技終了後には、これまでにない大きな拍手と歓声があがり、本部テントから移動する際に、初めて子供の組体操を見られた保護者の方から、「感動して涙が出ました！」という声が聞かれたところです。

余談になりますが、閉会式後に「解団式」を行いました。赤、白それぞれの団に分かれて、リーダーたちが一言ずつ思いを述べていました。本年度は、応援合戦は白団が勝ち、総合成績では赤団が昨年度に続き勝ちました。私は、団テントの後ろから、両方の団を見ていたのですが、白団の責任者の先生が団長の言葉（総合成績では勝てなかったけど、応援合戦で勝てたのは、みんなの協力のおかげです。ありがとうございました。）に感動し、涙ぐんでなかなか喋ることができませんでした。これも、子供たちと教職員が一つになり、本当に頑張ったからこそだと思います。

本校の運動会は、小学部・中学部・高等部の全学部合同になりますので、プログラム数は、子供たちの体力等を考え、来賓競技を含めて「12種目」と多くはありません。その限られた種目ではありますが、どの種目も先生たちが工夫を凝らし、子供たちの成長が見て取れる内容でした。

また、運動会当日の子供たちの“原動力”は、やはり保護者や家族の応援でした。練習段階では持てる力を出していなかった子供も、本番では保護者や家族が応援してくれる、活躍している姿、頑張っている姿を見てほしいという思いで、自分の力を精一杯出し切っていました。中には、家族や応援してくれる人に手を振りながら走る子供もいましたが、それも本校ならではの姿だと思ったところです。

今回の運動会は、費やした学習時間が成果として目に見える形となり、子供、教職員はもとより、保護者やご家族の方とも「感動の共感」ができたと思います。

校長として、子供たちには、この体験が今後の活動の力となっていくのではないかと期待しているところです。

最後に、早朝から「くましえん運動会」にお出でいただいた皆さまに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

球磨支援学校長 打越 博臣